

研修報告 C班1グループ あついスクール

第1日目(7/17) インTRODクシヨン～全体討議

INTRODUCTION・情報提供の発表を聴講した後、メンバー所属の各大学で、学生カルテなど各大学での学生支援の状況を報告することから始まり、主体的に事務職員・教員が学生支援システムを活用できていない現状をどう変えたらよいか、そのためにどのようにコミュニケーションをとればよいかなどが討議された。参考資料にある、インターネット配信を活用した「反転授業」に話が及び、このようなサービスを導入する場合、教員にどう理解を求めたらよいかなどについて話し合った。

その結果、以下の3つを“気づき”としてまとめた。

- ・事務職員と学生・教員とのコミュニケーションを深めることの重要性
- ・教育及び研究におけるICT導入のメリットと必要性
- ・教員の不断の努力による授業力向上の必要性

第2日目(7/18) 全体討議 討議結果のまとめ

教育活動や大学の管理運営の改善策とその構想づくりについてグループ討議を行い、討議結果をまとめ、翌日の発表準備を行った。討議は講習資料「グループ討議“見える化”シート」に沿って進めた。

(1) テーマの設定

1) 大学の役割は何だろうか？

- ・大学を取り巻く環境：少子化が進む一方で大学の数は増加し、大学全入時代と言われている。そういった時代背景を受け、基礎学力、人間関係形成能力が不足した学生も受け入れざるを得ない現状がある。
- ・社会が大学に求めること：高齢者、社会人、地域社会に向けた教育の提供、人材育成としての役割、“優秀”な学生を社会に輩出すること。
- ・人材育成：リテラシー教育の徹底。社会人としての基礎力を身につけた学生を育成し輩出する。

2) それに応えるために、大学は何をしなければいけないのだろうか？

- ・人間関係を築きにくい学生への支援
→学生が集まり、話せる場の提供
→グループ学習のある講義
- ・入学時の学力不足の問題→入試制度の見直し(学力レベルによる選別)
- ・入学時の学力レベルが低い学生への支援
→リメディアル教育を行う
→リテラシー教育を徹底し、社会人としての基礎力を身につけた学生に育てる
- ・学修意欲が低下している学生への支援
→人生の中で大学で学ぶ・生活することの位置づけ・意義を説く。低学年次からのキャリア支援を行い、入学時から卒業後の将来を見据えた大学生活を送ることの重要性を説く

3) 現状はどうだろうか？(目指すところと現状の差)

- ・学力不足の学生や孤立した学生に対する支援が不十分。
- ・教職員の負担の増大や人員不足により、充実した学生支援を行えていない。
- ・学生カルテなど学生支援システムを導入しているが、システムを主体的に活用できていない教職員もいて、有効に機能していない。

4) 実現するためにはどのような取り組みが必要なのだろうか？

- ・学生が仲間・友人をつくりやすくする場の提供
→グループ学習を義務づけた講義を多く導入する
→新入生研修の実施、1年次のゼミ等の導入
- ・基礎学力不足・人間関係形成能力の不足、学修意欲の低下など、個々の学生のマイナス要因の早期把握
→入学前アンケート・面談などを実施し、個々の学生の問題発見、全体的傾向の把握
→学生支援のためのシステム導入後の活用のあり方：教職員が主体的に活用できるようにする。
…システム導入のメリットを教職員に周知してもらう、活用方法の講習会実施など。
- ・学生生活全般のサポート

→職員サポーター制度を職務として導入する。

5) グループ討議では何を取り上げるか？

- ・討議テーマ：どのように有効な学生支援をするか？→これからの学生支援
- ・理想像：有意義な大学生活を送ってもらうこと
- ・目的：消極的な理由による退学者を出さない大学を目指す

(2) 問題点の深堀り

消極的な退学理由

- ・学業不振（学力不足により講義が理解できない、学修意欲の低下）
- ・人間関係を築きにくい（友達ができにくく、孤立してしまう等）

以上のような学生に対して…

→問題のある学生の早期発見が出来ていない

→教職員が主体的に対処しようとせず、対応が遅い

→教職員・学生の間で問題・情報を共有できていない

→魅力ある授業の不足

→主体性重視の大学教育の姿勢が、学生に浸透しきれていない

(3) 解決策の検討

1. 入学の目的、意欲、特徴を大学は早期に把握する

⇒ 入学者の実態把握

2. 新入生研修会、1年次ゼミの実施

⇒ 友人づくり、コミュニケーション機会の醸成

3. 学生カルテなどの活用で情報共有を図る

⇒ ひとりひとりの学生生活情報の把握

4. 共有した情報をもとに早めの面談を実施

⇒ 教職員によるきめ細やかなサポート体制

5. キャリア教育の充実、魅力ある授業づくり

⇒ 学修意欲・学力不足を補うサポート制度の導入

(4) 討議結果のまとめ

グループ討議の成果を整理しながら、パワーポイントにまとめた。

チームから発表者4名を選出した。

(5) 発表準備 第3日目 (7/19)

再度、発表スライドの見直しを行った。

第3日目 (7/19) 発表会と意見交換

- (1) **各グループの共通点**：大学が社会に対して人材育成の役割を担っているという認識、この役割に基づき、どのように学生支援を行うかについての提案であること。
- (2) **各グループの提案**：「愛校心」が学生の自立性、主体性の根幹と定めたグループ、学生に自分たちの学生生活がいかに将来へと結びつくのか意識させる仕組みづくりを提案したグループ、学生支援のために教職員の意識改革を提案したグループなどがあつた。
- (3) **自グループの成果**：消極的な理由による退学者を出さないことを目指した学生支援策を提案した。早期の学生の状況把握から種々の学生の問題への対応へと至るフローをイメージして提案した具体性を評価したい。
一方、反省点としては、**どんなに**よい解決策も教職員の主体性、協力・信頼関係がなければ有効な学生支援に結びつかない。そのような視点に立った解決策・提案も盛り込むべきであった。

以上